



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者

守永 信幸

〒870-0022

大分市大手町3-2-9

TEL 097-532-4919

FAX 097-534-6598

大分の明日に向けて挑戦の年に

2015年第4回定例県議会は、11月26日～12月16日の21日間の会期で行われました。提案議題としては、2015年度の一般会計補正予算や「大分県食育推進条例」の制定、大分県農林水産業振興計画の制定といった議案の外、国道57号の県道路線の認定といった議案など34本の議案について審議を行いました。

大分市と連携して作る『武道場』

今回提案された議案の中に「県立屋内スポーツ施設建設事業」に関するものがあります。施設の実施設設計費と地質調査費で合計約7,948万円というものです。2015年12月から基本設計に掛かり、来年10月末までに実施設計を終え、施設を2019年7月末までに竣工させると言うことです。これによって、ラグビーワールドカップのホスピタリティー施設として、ラグビー観戦時の社交の場として活用できるようにしたいとの説明でした。この施設は、大分市とも協議を行い、大分市1/4、大分県3/4の負担で建設され、その後の運営もそれぞれが負担しながら運営していくとされています。

県下の4割の人口が集まる大分市とうまく連携しながら、スポーツの振興が図れる施設運営が期待されます。

地域創成の原点となるべき農林水産業

12月10日に開催された農林水産委員会に委員外議員として出席しました。『新大分県農林水産業振興計画(案)』について説明がありました。基本政策としては、①構造改革の更なる加速、②マーケットインの商品(もの)づくりの加速、③経営者



▲高糖度甘藷「甘太くん」の洗果作業



▲新屋内スポーツ施設の完成後は、県営としては廃止される大洲総合体育館

マインドを持った力強い担い手の確保・育成、④元気で豊かな農山漁村の継承、を掲げ変化に対応し挑戦と努力が報われる農林水産業を実現し、安心して暮らしていける魅力ある農山漁村づくりを行うとするものです。

大分県下の多くの地域で農業の担い手が減少の一途を辿っています。人口減少にどの様に立ち向かっていくのか、を考えた時に、大分県の全域で人が暮らしていけるようにするには、農林水産業で暮らしていける経済構造を作っていかなければならないと考えます。基本方針を踏まえながらも、これまでの型にはまらない工夫も必要です。

障害のある方も豊かに暮らすために

11日の福祉保健生活環境委員会では、『障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる大分県づくり条例』の策定状況について報告がありました。この条例は、『誰もが安心して暮らせる大分県条例の制定に関する請願』として2013年12月に県議会に提出され、翌年全会一致で採択し、条例づくりを県議会として執行部に要請したものです。約1年掛かりましたが、ようやく条例が制定されようとしています。

2011年に条例をつくる会が作られ、障害のある方々やご家族に聞き取り調査などを行い、生の声を伺うことからスタートした条例づくりでしたが、条例が制定されてからが、障害のある方々と障がいのない方々との2人3脚による取り組みのスタートです。お互いに理解が深められる取り組みが重要となります。

様々な課題に、県民の皆様の目線で取り組めるよう、2016年も努力を重ねて参ります。引き続きのご指導とご鞭撻をお願いします。

新たな埋蔵文化財センターについて 旧芸館施設の活用方針

既に報道等もされていますが、大分市牧の旧芸術会館に、埋蔵文化財センターが移転してくることになりました。地元への説明会も2015年8月に行われています。では、埋蔵文化財センターとはどのようなことをする施設なのでしょう。

埋蔵文化財センターは、現在大分市中判田にあり、①発掘調査、②整理・記録報告、③広報・活用といった業務を担っています。1997年に旧大分職業訓練校・県工業試験場電子部の跡地へ移転し、2004年から埋蔵文化財センターとして運営されてきました。しかし、築後50年の建物もあり、近年老朽化による損傷が進み、業務に支障を来すようになっています。

そこで「埋蔵文化財センターの今後のあり方検討会」で議論がされ、2014年度末に廃止となった県立芸術会館の活用について「旧芸術会館は、博物館施設として必要な展示施設や資料保管のための定温収蔵庫などがあり、そのまま活用できる。また、知名度の高い県立芸術会館の施設を引き継ぐことができれば、来館者の増加も期待できる。それによって教育普及事業として、児童・生徒を対象としたわかりやすい展示、調査結果を県民に積極的に公開し、大分県の考古学情報の発信拠点として、広く県内外に向け情報発信が必要」などと提案されています。

このような答申に対して、県教育委員会は、「①芸術会館跡地への移転を関係機関と協議する。②展示機能の充実を図ること等により、学校教育との連携を一層推進するなど、県民の期待に応えることが出来るよう検討を進める」といった



◀移転先の旧芸術会館

▶現在の埋蔵文化財センター (大分市中判田)



方針を確認しています。

今後は2016年1月から2月にかけて、基本構想も含めた実施設計を行うなど、2017年4月オープンに向けて、改修工事が具体化される予定です。

同施設は、これまでも県下の小・中学校を中心に、埋蔵文化財調査の仕事について体験してもらう「職場体験」や古代の道具を使った『歴史体験』といった企画で、2014年度は184名、2015年度はこれまでで296名の児童・生徒を受け入れています。また、先哲資料館を利用した企画展などで、6,500名を超える見学者を受け入れており、芸術会館跡地に移転してくることで、更に多種多様な催しの企画が広がる可能性を秘めています。例えば大友宗麟にまつわる遺跡や古代の大分県下の暮らしについて感じ取ってもらうことも子どもたちの想像力を高める上で貴重な施設となるのではないかと思います。



▲大分市判田小学校6年生の職業体験受け入れ



▲佐伯市楠本小学校外3校の社会見学受け入れ



▲蒲江湘南中学校の修学旅行の受け入れ

(写真提供:埋蔵文化財センター)

大分駅以东・以南の交通対策の改善を ～大分都市圏の公共交通について～

人口増加のエリア

2015年9月に『大分都市圏総合都市交通計画』が公表されました。これは2013年に実施された第2回大分都市圏パーソントリップ調査という、通勤・通学や日常生活での人の動きについて調査をした結果を分析し、長期的な視点での交通体系の将来像とその実現に向けた基本方針を定めたものです。

表-1 大分市の地域別人口・世帯数の変化

区分	世帯数		人口					
			総数		男		女	
	2005年	2015年	2005年	2015年	2005年	2015年	2005年	2015年
全市	186,169	212,396	463,514	477,853	222,760	229,541	240,754	248,312
本庁地区	85,952	96,343	196,939	204,034	93,415	96,623	103,524	107,411
鶴崎地区	26,993	32,327	74,183	79,051	36,291	38,534	37,892	40,517
大南地区	9,690	10,853	28,361	27,676	13,632	13,274	14,729	14,402
植田地区	33,303	36,908	85,381	84,629	41,022	40,350	44,359	44,279
大在地区	9,161	12,483	21,908	27,806	11,157	14,405	10,751	13,401
坂ノ市地区	5,837	7,505	15,795	18,335	7,527	8,971	8,268	9,364
佐賀関地区	4,928	4,658	12,570	9,588	5,884	4,471	6,686	5,117
野津原地区	1,900	2,017	5,266	4,550	2,533	2,183	2,733	2,367
明野地区	8,405	9,302	23,111	22,184	11,299	10,730	11,812	11,454

単位(世帯、人)

大分都市圏の捉え方は、大分市と近隣市を含めたエリアとして捉えています。

大分市内の人口増減を見ると、大分市中心部と鶴崎・大在・坂ノ市地域で人口の増加が見られます。2005年から2015年の10年間の変化を見ると、表-1のとおりで、中心部も3.6%伸びているのですが、鶴崎地域で6.6%、大在地域で26.9%、坂ノ市地域で16.1%と更に高い伸び率を示しています。

今回の総合都市交通計画でも、大分都市圏で全体的に将来の交通量は減少する見込みとしながら、大分市中心部と大在・明野地区との間は増加する見通しを立てています。また、鉄道やバスと言った公共交通は全体的に減少し自動車が大分-大在間と大分-明野間で増加すると見通しています。これらの地域間の交通整備をどの様に考えるかは重要です。

公共交通の位置づけ

現状の移動手段としては、自家用車などが最も多く67%を占め、鉄道が2%、バスが3%となっています。それでも、アンケート調査の結果では、約3割の方々が、「公共交通の利便性が良くなれば、自動車等から公共交通機関へ手段を変更する」と答えています。

具体的には、鉄道に関しては「運行本数の増便」、「車内の混雑緩和」、「列車の高速化(所要時間の短縮)」、バスに関しては「運行本数の増便」と「定時制の確保」が求められています。鉄道とバスの連携や使い勝手を工夫することで、3割とまで行かなくとも、多くの方が公共交通機関に変更する可能性があり、公共交通を巡る住環境をどの様にしていくか議論を深める必要があると考えます。

高齢化を見据えた施策を

JR大分駅から東や南に走る日豊線、豊肥線、久大線は、単線となっており、列車の所要時間の短縮には自ずと限界があります。

例えば、日豊線では白杵駅と大分駅間の普通列車の所要時間は最短で42分、最長で68分と便によって26分間もの較差があります。また、豊肥線の大分駅と三重町駅間の所要時間は最短で42分、最長62分とやはり20分間の差があります。この所要時間の差は、この区間が単線であるため、上り下りの列車が駅で離合する待ち時間や特急列車の追い越しの



◀大分駅前のバス停

▶駅で離合する列車



待ち時間が影響しているわけです。全線複線にするのは、人口減少が見込まれる中で困難と思われますが、離合所を設けるなど所要時間短縮のための工夫の凝らし方はあると思います。できれば離合箇所を駅として整備すれば、バスやタクシーの利用のあり方も違ってくるでしょう。

今回の総合都市交通計画は、基礎調査を基に考えるヒントを示したとも言えます。多くの住民の皆さんのご意見を伺いながらより良い交通体系整備を目指さなければなりません。

TPP について国民に解る説明と議論を

第4回定例会の最終日、県民クラブからの議員提出議案として「TPPに関する情報公開と国会審議の徹底を求める意見書」を提出しました。

意見書は、これまで秘密で行われてきたTPP交渉が大筋合意に至ったにもかかわらず、その内容が詳細に知らされておらず、臨時国会も開かれなかったことから、国会議論もなされておらず、問題点が明確にされていないため拙速な調印・批准をすべきではないことを指摘し、情報の開示と国会での慎重な審議を求める内容です。

結果的に、この意見書は自民党(党籍有り)と公明党、無所属の各会派の反対により、採択はされませんでした。

重要5品目の輸入枠の拡大や関税引き下げに加え、農産物でも多くの品目で関税撤廃が行われるため、多くの農家は経営環境の変化に不安を抱えています。

特に主食である米の生産体制は、個別農家の大規模化や集落営農組織を立ち上げてコストの低減を図ってはいますが、米の売り渡し価格は下がる一方であり、将来への農家の不安は高まるばかりです。

仮に10kg 6,000円のお米(ちょっと高い値段を想定しました)を買った時に、お茶碗1杯の米は、精米65グラムほどですから、1杯当たり約39円。この価格を高いと考えるかどうかです。

国外から安い価格のコメが輸入されれば、大量に扱う企業は、コスト削減のために、価格低下の誘導を図ることになるでしょう。結果的に、国内産の米の価格が下がったり、需要が激減したりすれば、米を生産する農家はいなくなり、国内の水田は荒廃の一途をたどることになります。

水田の荒廃によって、引き起こされる景観や環境の悪化、例えば赤とんぼが絶滅すると言ったことは、誰かが説明をしないと誰も気がつきません。再生産が可能な価格で農産物の取引が続けられるには、消費者の皆さんの理解が必要です。

また、第一次産業に若者が携わり、その若者が、家庭を持ち、子どもを産み、育てていける環境を創っていかねば、日本の多くの農山村から人はいなくなってしまう。TPPによって、新たな輸出の道が開ける面もあるのかもしれませんが、「工夫をし、自立しうる産業としての道を切り開けば良い」と言われても、どの様に変わっていくのか詳細に説明がないままでは、どの様に活路を切り拓いて良いかさえ判らないこととなります。

TPPによって、現在の状況がどのように変化をし、対策として何が出来るのかを検討するための情報を与えられないまま、放り出し、頑張れよというのはあんまりでしょう。



▲スーパーで売られているお米は、2～3千円が主



もりちゃんの足跡



▲ 11/3 津留小学校復活か開校60周年記念式典に出席。戦争によって閉校となった歴史を振り返りました。

▼ 12/6 「ガチ取る憲法9条にノーベル平和賞」に参加。伊藤真氏の講演を聴きました。



12/17 県民クラブの地域課題研究会 in 臼杵に参加。



▼ 臼杵市野津地区では、キリシタン墓地についてお話を伺いました。地域の気質を感じることが出来ました。



▲ 臼杵市深江小中学校の廃校舎を利用し、地域の活性化に取り組む様子を伺いました。

お知らせ

- ◇総務企画委員会と行財政改革・グローバル特別委員会に所属しています。
- ◇皆様のご要望に応じて、各地域・職場での意見交換にお呼び頂ければ、喜んで参加させていただきます。日程調整のため、ご連絡ください。
- ◇守永後援会会員を常時募集しています。年会費は一口3千円です。守永の活動をご支援くださる方、是非ご加入を。
(連絡先：097-532-4919 担当=後藤)

編集後記

2015年は慌ただしく時間が過ぎてしまった気がします。私の地元小学校区には、私自身が手配りをしていますが、議会報告を配り終える前に、次の議会が始まってしまうような状況が続きました。様々な課題についてじっくり議論する時間も持てないまま推移しています。私たちの将来に向けての施策や法律について、じっくりと時間をかけて議論をする余裕が欲しいものです。